

## 第21回呼吸ディスカッションの会

日時：2008年3月25日（火） 18:30～21:00

場所：京王プラザホテル（47階 あさひ）

〒543-0031 東京都新宿区西新宿2-2-1／電話 03-3344-0111（代表）

会費：8,000円（学生4,000円）

### 招待講演（18:35～）

演者：斉藤 満先生（豊田工業大学）

演題：ハンドグリップ運動時の呼吸反応と交感神経活動

これまで交感神経反応を手がかりに運動時の循環調節に対する運動強度、時間、運動様式、トレーニングの影響を検討し、静的運動時の交感神経活動反応は左右運動時で異なること、代謝受容器反射はレジスタンストレーニングの影響を受けないことなどを認めた。しかし、呼吸反応と交感神経活動の関連については関心を持っていたが検討してこなかった。交感神経は酸素運搬の役目を担う循環調節系として、呼吸系は体内への酸素の取り込みの役割として、両者の働きに共通する点が多いと考えられる。今回は静的運動時の筋交感神経活動と循環および呼吸反応を同時に観察し、左右運動時の反応およびレジスタンストレーニングの影響について検討した。この結果、両反応には異なる面が多くみられた。これらの意義について考える。

### 話題提供（20:00～）

演者：中谷康司（東邦大学医学部統合生理学）

演題：リズム運動とセロトニン神経：呼吸に焦点を当てて

セロトニン神経は様々なリズム運動によって活性化される。我々は呼吸リズムの変動を伴う行動として、①丹田呼吸法、②太極拳、③自転車漕ぎ運動に着目し、セロトニン神経との関係で研究を行ってきた。その結果、これらの行動は、脳波に速い周波数帯域の $\alpha$ 波を生じさせるとともに、心理テストにおける活気の上昇や緊張不安の低下、また血中・尿中セロトニン濃度の上昇を誘発することが明らかとなった。今回は、このような結果について紹介する。

世話人：北 一郎（首都大学東京人間健康科学研究科）

連絡先：〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1

首都大学東京人間健康科学研究科ヘルスプロモーションサイエンス系

電話 042-677-2973 FAX 042-677-2961

E-mail kita-ichiro@tmu.ac.jp

(備考)

\* 食事について

着席ビュッフェ形式

\* キャンセルについて

食事については、ホテルの方で前日24日までに連絡すれば対応可能ということですので、それまでに北へ連絡して下さい。

進行プログラム

18:00 ころ 準備、受付

18:30-18:35 開会の挨拶（有田秀穂先生、東邦大学統合生理）

---

18:35-19:05 **招待講演**：齊藤 満先生（豊田工業大学）

「ハンドグリップ運動時の呼吸反応と交感神経活動」

19:05-19:20 ディスカッション

---

19:20-20:00 食事をしながら歓談

---

20:00-20:30 **話題提供**：中谷康司先生（東邦大学医学部統合生理学）

「リズム運動とセロトニン神経：呼吸に焦点を当てて」

20:30-20:45 ディスカッション

20:55-21:00 閉会の挨拶、次回のお知らせ